

中山間地域における女性林業研究グループの役割

～ 山口県を事例として～

森林政策学研究室 木村衣里菜

1. はじめに

中山間地域は、国土・自然環境の保全や水源涵養などの他、自然と触れ合う場所として、国民共有の貴重な財産として多面的機能の発揮が求められているところである。しかし、「条件不利地域」という言葉で表現されるように、まとまった耕地が少ないことや担い手不足等多くの問題を抱えている。そうした状況を克服するために、中山間地域の活性化が重要な課題となっており、各地で様々な取り組みが行われている。成功している地域においては、女性が様々な地域活動を担っていることが農業経済研究や村落社会研究の分野において指摘されている*1。中山間地域の女性活動の母体としては、JA婦人部や生活改善グループが目目されてきたが、森林所有者の自主的な組織である林業研究グループ(略称;林研グループ)の分析はこれまで為されていない。そこで本研究では、女性林研グループが多く設立されている山口県を事例として、林研活動の今日的な役割と可能性について考察することを目的とする。

2. 研究方法

山口県は、中山間地域市町村を数多く抱え、また、全国で2番目に林研グループが多く、特に女性グループの活動が盛んである*2。研究方法は、全国林業改良普及協会(略称;全林協)の資料およびHP上のデータ、山口県林政課資料の収集・分析、設立年代ごとに5つの女性林研グループを選定し、聞き取り調査を実施した。調査項目は、設立経緯、会の目的、活動状況、グループが抱える問題、今後の方針、会員の参加動機と農林業就業状況などである。

3. 林研グループ分析

(1) 歴史

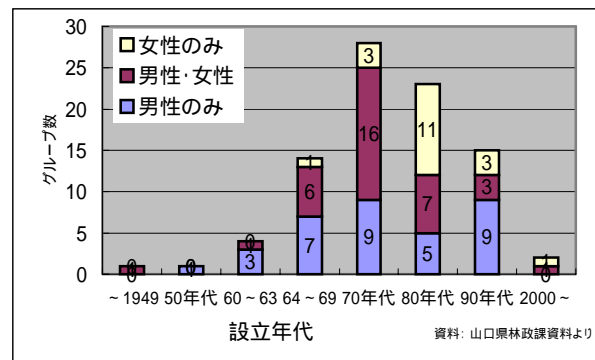
林研グループには、苗木・シイタケなどの生産グループから派生したものと、各都道府県が開催する林業教室(主に森林所有者対象)の修了生が集まって結成したものがある。林業教室とは普及事業の一環で、1962年、普及指導の対象に林業後継者が

追加されたことにより、各地で始まったものである。そしてその修了生によって次々にグループが結成された。しかし木材価格の低迷による会員の意識の低下、高齢化などから活動が衰退しているグループが多く、中には解散したものも少なくない。山口県ではのタイプが多く、林業教室が始まった1964年以降に設立されたものが大多数である(図1、表1)。

(2) 現状

グループ数...全国に1,640グループあり、最も多いのは北海道で、96、次いで山口、鹿児島、岡山、岐阜で、北海道を除いて全て西日本の県であった。

平均年齢...60代以上であるグループは全体の37.5%であるが、60代以上割合が高いのは香川、山口、兵庫、京都、和歌山の順である。山口県は2位で、75.3%であり、深刻な高齢化が進んでいる。



女性を含むグループの割合...男女、女性のみグループを合わせて、全国では33.1%を占める。上位は沖縄、山口、東京、埼玉、鹿児島で、山口県は2位、61.2%で、女性が参加しているグループが多い。図1によると、1970年代は男女のグループが、80年代は女性のみグループが多く設立されている。

図1. 山口県の林研グループの設立年代

4. 女性林業研究グループの実態

(1) 活動内容

設立年代ごとに選定した5つのグループを調査した。各グループの概要は表1の通りである。

A 林業振興会は女性部会としての活動よりも全体としての活動を中心に行われている。田平婦人の山

以外の4グループは活動が盛んである。この理由は会の目的、活動内容、意義などを見ると違いがわかる。木材価格が低迷した現在では、70年代に設立された田平婦人会の「木材生産」という存在意義が薄らぎ、会員の高齢化も進んでいる。また当グループは会員の組織範囲が集落内であるため、交流を図るために集まる、といった意義も林研活動に求められていない。

田平婦人会以外の4グループでは、全てで都市交流、環境教育、イベント活動を行っており、地域貢献度が非常に高い。また、具体的な活動は料理、草木染め、つる細工、竹炭づくりなどであり、グループの意義として「趣味」や「会員間の交流」が多く挙がっている。会として事業収入を上げているのは3グループである。錦町林業振興会女性部の部長は林研活動への参加をきっかけにその後農林産加工品(ワサビ漬け等)の生産・販売を始め、現在、年数十万の副収入を得ている。

(2) 女性林研会員の加入動機と参加意義

各グループの代表者の意見を挙げる。

- ・錦町林業振興会女性部会...「林業教室で習った技術で、我が家の山づくりをしよう、と会を設立した」
- ・旭愛林会...「グループを作って交流を深めること、習った技術で儲けて視察の資金を作ること

表1 グループ概要

グループ名	田平婦人の山	A林業振興会女性部会	錦町林業振興会女性部会	旭愛林会	どんぐり
場所	旭村	F村	錦町	旭村	長門市
設立年	1971年	1978年	1984年	1988年	1999年
会員数(人)	16	14	38	21	11
組織範囲	集落内	村内	町内	村内	市内
設立のきっかけ	県職員からの勧め				
年間活動回数(回)	1	5(20)	30	20	20
会の目的	木材生産	会員の技術の自己研鑽	森林の利活用による地域林業の振興	未利用資源活用による地域おこし	未利用資源の有効利用による地域林業振興
主な活動内容	造林(現在は総会のみ)	シイタケ栽培、料理作り	草木染め、つる細工	草木染め	竹炭づくり
地域貢献	都市との交流	×			
	環境教育	×	×()		
	イベント	×	×()		
活動中心年齢層	70代	50代	60代	50代	50代
会の意義	知識・技術の勉強	趣味、交流	仲間や他グループとの交流、やる気の源	趣味、仲間との交流	趣味、仲間づくり、地域内外との交流、技術向上
グループが抱える問題	山が広すぎる、高齢化	年齢層の違いにより意気投合が困難	新旧会員の意識の違い	新しい人を入れることへの戸惑い	小規模のため、道具が揃えられない
事業収入(千円)	-	-	-	246	610

注:表中の()内は、女性部会としてではなく、振興会全体としての活動である。

を目的に設立した。今は退職してからの趣味としてやっている」

(3) 組織運営上の課題

- ・A 林業振興会...「年齢層が幅広い(40代~90代)なので、意気投合が難しい」
- ・錦町林業振興会...「途中から草木染めを始めて、それしか知らない人には華やかな会に見えるだろうが、元々、林業を目的に設立したのだから、新しい会員を入れる際には最初にその旨をきつく言うが、最近の人は趣味と思っている様子が見られる」

5. 考察

今回の調査によって明らかになったことは以下の通りである。設立年代によって活動目的が変化している。林研グループは地縁組織を越えて、気の合う仲間同士の活動母体として寄与している。その中から、森林資源を活用した、中山間地域のビジネス起こしのきっかけとなる可能性も期待できると考えられる。しかし、活動メンバー中心が50代以上であり、世代間交流とリーダーの世代交代が課題となっている。

*1 岩崎由美子(1995)農村における女性起業の意義と方向性(年報 村落社会研究 第31集)

*2 全林協HP(04/08/15)